

ストーリー中心型カリキュラムのための e ラーニング環境の改訂に関する形成的評価 Formative Evaluation of Revised e-Learning Environment for Story Centered Curriculum

高橋暁子^{*1}・竹岡篤永^{*1,*2}・根本淳子^{*1}・柴田喜幸^{*1,*3}・鈴木克明^{*1}

Akiko TAKAHASHI^{*1}, Atsue TAKEOKA^{*1,*3}, Junko NEMOTO^{*1}, Yoshiyuki SHIBATA^{*1,*4}
and Katsuaki SUZUKI^{*1}

熊本大学^{*1}・九州大学大学院^{*2}・産業医科大学^{*3}

Kumamoto University^{*1}, Graduate School of Kyushu University^{*2}

University of Occupational and Environmental Health^{*3}

＜あらまし＞ 著者らは、インターネット型大学院において複数科目の横断的な学習方法として“ストーリー中心型カリキュラム (SCC)”を導入している。本稿では、受講者のアンケートと電子掲示板への投稿から 2012 年度後期 SCC ホームの改訂効果を探った。その結果、各課題の締切日を明示したカレンダー風の画面に変更したことで、学習計画立案支援や認知的負荷軽減の効果が示唆された。

＜キーワード＞ ストーリー中心型カリキュラム、インターネット型大学院、e ラーニング、インストラクショナルデザイン、LMS

1. はじめに

インターネット型大学院である熊本大学大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻では、2008 年度から博士前期 1 年生を対象に複数科目の横断的な学習方法として“ストーリー中心型カリキュラム (SCC)”を導入し、改善を重ねている (根本ほか 2011 など)。2012 年度後期に行った改訂の一つに、SCC 履修者が最初にアクセスする「SCC ホーム」がある (高橋ほか 2013)。

本稿では、受講者アンケートと電子掲示板への投稿内容から SCC ホームの改訂の効果を探った。

2. 2012 年度後期 SCC ホームの改訂

2012 年度後期の主な改訂点は次の 2 点である。

(1) 画面スタイルの変更

2012 年度後期 SCC ホームは、学習計画の立案支援を重視し、各課題の締切日を明示した週間カレンダー風のスタイルに変更した (図 1)。これにより、課題が多い週などが一目で把握できると考えた。また、前期 SCC ホームのスタイルに合わせることで、初見時の認知的負荷を減らす意図もあった。

(2) 選択科目の進捗表示機能の追加

SCC では、必修科目をストーリー中の業務を補強する科目として位置づけていた。2012 年度後期では、さらに必修科目を補強する科目として選択科目を位置づけた。そこで後期 SCC ホーム画面に履修している選択科目を表示する機能を追加した。選択科目の履修数に応じて、「同じ列

に表示」と「科目ごとの列表示」に切り替え可能とした。あわせて、進捗状況 (課題の合格・超過・再提出などの情報) の表示も、2011 年度までは必修科目のみ対象だったが、2012 年度後期から選択科目を含むすべての履修科目を対象とした。

3. 結果と考察

2012 年度後期の改訂が、設計意図通りの効果を得られているかを確認するため、SCC 受講後に受講可能となる SCC の設計方法を学ぶ選択科目内の「SCC の学習環境に関するリフレクション (アンケートと掲示板への投稿)」を分析した。

2012 年度 SCC 受講者 15 人のうち 5 人と 2011 年度 SCC 受講者 15 人のうち 9 人の回答が得られたので、この 2 つを比較した。

3. 1. 画面スタイルの変更による学習計画立案支援への効果

2012 年度の掲示板に「後期 SCC ホームは、選択科目の集中講義の日程や必修と選択の締め切りの兼ね合いを確認するために、前期より閲覧する機会が増えました。」という投稿があった (1 名)。2011 年度は同様の投稿がなかったため、画面スタイルの改訂によって締切日が確認しやすくなり、受講者の学習計画の立案支援に役立った可能性がある。しかしアンケート回答者が少なかったため、今後、未回答者への調査が必要である。

一方で、学習計画立案支援のために、「業務計画書」という名称で学習計画書のひな形 (Excel ファイル) を別途配布している。今後は業務計画

左は選択科目を「同じ列」に一覧表示した場合。右は選択科目を「科目ごと」の列で表示した場合

図1 2012年度後期 SCC ホームの一部

書と SCC ホームとの統合を視野に入れて、より効果的な学習計画の立案支援方法を探りたい。加えて、学習計画立案支援機能と、従来から SCC ホームに備わっている「ストーリー提示機能」、「進捗管理機能」との連携も検討する。たとえば、SCC ホーム上に「目安日（過去の受講者の学習予定日・完了日等）」を提示して、目安日を参考に受講者が学習予定日を入力できるようにし、予定日や締切日がきたらストーリーに沿ったアラートメッセージを出すことが考えられる。

3. 2. 画面スタイルの変更による初見時の認知的負荷軽減の効果

アンケートの「私は、迷うことなく後期 SCC ホームを利用することができた。」という設問について、2011年度は「同意できない（1名）」「全く同意できない（1名）」という回答があったのに対し、2012年度は「同意できない」「全く同意できない」という回答はなかった。前期・後期の画面スタイルの統一によって、初見時の認知的負荷が軽減されたのではないかと考えられる。

3. 3. 選択科目の進捗表示機能の効果

2012年度の SCC ホームのスタイル変更に対するアンケートとして用意した「私は、『選択科目チェックボックス』を次の場合に使用した。（複数選択可）」という設問において、全員が「『選択科目』選択後」に使用したと回答した。また選択科目の表示方法を問う設問では、「同じ列に表示」が3名、「科目毎に表示」が1名、「状況に応じて

切り替えて使用した」が1名であった。一方で、アンケートの自由記述に「SCC ホームは前期の方が使いやすい（見やすい？）ように感じた」という意見もあった。前期 SCC ホームにはない「選択科目の表示」は、煩雑な印象を与えた一因とも考えられる。以上から、選択科目の進捗表示は、機能としては有効であったものの、見方においては工夫の余地があると考えられる。

4. おわりに

本稿では、受講者のアンケートと電子掲示板への投稿から 2012 年度後期 SCC ホームの改訂効果を分析した。その結果、画面スタイルの改訂が受講者の学習計画立案支援に役立ったことなどが示唆された。今後、未回答者への更なる調査や SCC ホームの各機能の連携を検討する。

参考文献

- 根本淳子・柴田喜幸・鈴木克明（2011）「学習デザインの改善と学習の深化を目指したデザイン研究アプローチを用いた実践」日本教育工学会論文誌 35（3），259-268
- 高橋暁子・伊澤睦・宮崎誠・竹岡篤永・柴田喜幸・根本淳子・鈴木克明（2013）「ストーリー文脈と科目横断型進捗管理機能を付加した eラーニング環境の開発 ―インターネット型大学院の事例をもとに―」教育システム情報学会研究報告 27（5），51-58